

【五日市地区の神社】

五日市八幡神社 創立年代は不明で天文年中の大暴風雨によって、坪井村の奥矢櫃谷に山津波が起こり坪井村と千同村を押し流しました。この時に椿原（現観音台団地）鎮座の社殿は五日市の御戸森まで流されました。村人は流れついた社の社宝や扉などを拾い集めて新宮山上へ祭りました。再び暴風雨により社殿が倒壊し、1710年（宝永7年）には皆賀村の八幡宮に移して合祀していました。その後、近郷の15ヶ村（屋代・三宅・坪井・千同・倉重・保井田・寺田・寺地・中須賀・口和田・高井・利松・皆賀・井口・五日市）の総氏神となりました。秋の氏神祭が近づくと、社人を先頭に15ヶ村の家々を回り、悪魔払いと称する獅子舞の行事が1874年（明治7年）頃まで続きました。1868年（明治元年）には、新宮山上の新宮神社がすでに現在地に移り、当地に1875年（同8年）6月6日に、皆賀八幡宮から八幡神社を移して合祀しました。1912年（明治45年）に地毛地区の大蔵神社を合祀し、1921年（大正10年）には皆賀の八幡神社をも合祀しました。五日市町の八幡神社の祭は「喧嘩神輿」と俗称されていました。現存する神輿は三体あり、1846年（弘化3年）に作られたもので、古江村の庄屋ほか各村の庄屋名が載っています。



五日市八幡神社

皆賀八幡神社跡 創建は古く江戸時代の岡岷山の「都志見往来日記」に記され、西国街道から八幡川沿いを上がった地にあり、現在石柱の碑が立っています。

塩屋神社 由緒は不明ですが毎年旧暦7月初旬に塩屋明神の例祭が行われています。広島藩は海老塩浜を拓いた際に、この神を守護神として祭りました。夏季大祭には神輿を御座船に移し、管絃を奏しながら津久根島に向かい、海上安全・航海安全・漁業豊満などの祈願を行います。津久根島を三周して「あまじゃく祭」を行い、この間に花火が打ち上げられ、神社前では「人形流し」や「灯籠流し」の悪魔払いが行われ、夏の風物詩として親しまれています。



塩屋神社

五つ神社 由緒は不明ですが、古くから「えびすさん」と親しまれています。菅原道真が大宰府に流される途中に、当地に船を寄せてしばらく休息され、その時に植えられた梅が実を結んだといひます。今は5柱の祭神が祭られ社名の出自とも思われ、老松に往時が偲べれます。



五つ神社

電宮神社 漁業者の守護神で創建の年は不明です。古浜新開が築造された時に、堤防の内側斜面に創建されたものを、臨海土地造成（楽々園沖）の工事が完了した際に、現位置に改築移転しました。



電宮神社

若宮神社 若宮さんと呼ばれ、初めは用免山上にありましたが、通称瀬戸の川の現在地に移されたものです。五日市光明寺城主の穴戸氏の勧請ともいわれ、祭礼は旧暦10月13日で現在も続けられています。商売繁盛・家内安全・厄除けなどの御利益があるといわれています。

護国神社（貴船神社） 広島市の招魂社の本殿を1937年（昭和12年）の盧溝橋事件の後に譲り受け、五日市町の揚上の貴船神社を海老山上に遷座し、五日市の護国神社としたものです。1953年（昭和28年）に原爆学徒の犠牲者を合祀し現在に至っています。

大地神社（おおとこ神社） 1879年（明治12年）に五日市の吉見新兵衛によって、吉見新開の埋立工事が開始され、その後に堺町の古川久吉と塚本町の貝塚新八が受継ぎました。再三の高潮の被害をうけ、ある夜当地の空要次郎は、夢枕で樋蓋の上で助けを聞き、その上の白木の人形を持ち帰り、後継者の二人に伝えました。1910年（同43年）に木造の御神体を祭り、社殿を建立し吉見園を始め藤垂園の守護神となり、現在地の社殿と堤防内の開拓碑に往時を偲びます。

八幡川流域の寺院

【石内地区の寺院】

浄土寺 真言宗で平岩山教専坊と言われ開基年代は不詳です。天文年間（1532～55年）に、石内村水晶ヶ城主・麻生右衛門鎮里が菩提寺としました。後に鎮里の末子道味が平岩山浄土寺と改め、浄土真宗に改宗しました。



浄土寺

浄安寺薬師堂 本尊の薬師如来は行基菩薩の作と伝えられています。古くから「目薬師さん」と呼ばれ土地の人に信仰されています。1755年(宝暦5年)の本尊修理の際に書かれた木札が今も本尊内に残されています。美術的にも価値が高く1983年(昭和58年)に、五日市町重要文化財に指定されました。



浄安寺薬師堂

金剛院 852年(仁寿2年)巖島に建立されましたが、1877年(明治10年)に石内村に移されました。浅野家の信仰が厚く仰正忌は旧暦3月21日です。1944年(昭和19年)8月に火災にあい、現在の建物は後に再建されたものです。

迫口観音 本堂の中には本尊の観音菩薩が安置されています。結婚の際にはこの石仏が運ばれ、新婦が赤い着物を着せて返す風習がありました。



迫口観音

浄徳寺観音堂 旧本尊の観音菩薩は行基菩薩の作と伝えられていますが、後に盗難にあい改作されました。もとの所在地は保井田村の飛騨でしたが、1884年(明治17年)石内村に編入されました。

【八幡地区の寺院】

正楽寺(保井田薬師堂) 保井田村の佐伯久兵衛が1815年(文化2年)に『保井田邑薬師縁起』を記しましたが、本尊の薬師如来は行基菩薩の作と記されています。807年(大同2年)には弘法大師がこの地に訪れ、真言密教の道場として開いたといわれています。薬師如来の水は眼病に効果があると言伝えられています。また薬師が丘団地はこれにちなみ、最初は団地丘陵の岩礫山(イワグロサン)にあり、山号となりました。



保井田薬師堂

法専寺 もとは慶雲寺という禪宗寺院でしたが、1559年(永禄2年)に宗円禅師が浄土真宗に帰依し改宗しました。その後1627年(寛永4年)に本願寺から現在の寺号を受け法専寺となりました。1679年(延宝7年)に公儀から、20石の知行を受けました。

正覚寺 もとは天台宗の寺でしたが、1491年(延徳3年)に僧祐浄が浄土真宗に改宗しました。後の1659年(万治2年)に本願寺から寺号公称の許可を受け正覚寺になりました。石山合戦援助の功により本願寺第11代顕如上人から、真筆「虎毛の名号」を受け寺宝としています。

田中寺 「鷹尾山田中寺縁起」によれば、本尊阿弥陀如来は行基の作とされています。極楽寺山にあった杉の大樹で三体の仏像を彫り、その一体が田中寺阿弥陀如来の尊像と伝承されています。1738年(元文3年)からは浄土真宗本願寺派に属しています。



田中寺

【五日市地区の寺院】

光禪寺 もとは仏護寺十二坊の一坊で、天台宗に属していましたが、後の1506年(永正3年)に浄土真宗に改宗しました。北部池田城跡にあった五葉院から現在地に移ったのは、1580年(天正8年)といわれます。梵鐘は廿日市の鋳物師第18代山田次右衛門貞栄が1679年(延宝7年)に作ったものです。経蔵には1868年(明治元年)に寄贈された木版大蔵經があります。南北朝時代に後醍醐天皇に味方し、足利尊氏軍を撃退した比叡山衆徒の先頭に立った祐覚は当時の僧でした。



光禪寺

品正寺 五日市の住人品川源之助が、1648年(慶安元年)に浄土真宗に帰依し、古く廃絶された明教坊という寺を再興し、品正寺と号しました。1843年(天保14年)に本願寺から寺号を許可されました。本尊は阿弥陀如来です。

正向寺 貞享年間(1684～1687年)に五日市の住人の桜井文吉が、光禪寺の弟子となり龍泉と改名し、1689年(元禄2年)に現在地に創建しました。1843年(天保14年)に本願寺から正向寺の公称を認められました。

最広寺 長州藩主毛利輝元の家臣である古川嘉兵衛吉光が、1648年(慶安元年)に五日市村に來住し浄土真宗に転じ靈向と改名し、1655年(明暦元年)に寺を創建し最広寺と称しました。1843年(天保14年)に寺号の許可を受けました。

八幡川流域の地蔵堂

がきの首地蔵(西区井口四丁目) 八幡川河口は潮瀬が悪く、舟の遭難もあったので、安全や供養のために安置されたといわれています。西国街道にも面し通行人によく知られていました。婚礼にはよく運び出されていましたが、若者が地蔵さんと角力を取り、首が折れてからは出られなくなりました。



がきの首地蔵

首無地蔵(五日市七丁目) 落合橋南の八幡川の土手上にあり、石内川との合流地点でよく決壊しました。また五日市用水路の分岐点でもあり、土木工事の際の供養仏とも思われ、再三の持ち運びで首がなくなりましたが、現在では新しい石造仏となっています。



首無地蔵

最勝講地蔵(八幡東二丁目) 旧田中寺跡に放置されていました。おそらく六地蔵の1体で、結婚式に運び出す慣習のあった時代に、返す場所が分からなくなり、当寺に持ち込んだものと思われます。1961年(昭和36年)からは12月8日を奉迎日として最勝講中の人々が小祠を建て、現在の田中寺の境内に安置しました。

お鎮め地蔵(八幡東三丁目) 石内川と支流の合流点にあり、石内バイパスによって消滅した火葬場の残灰処理のため安置され、移設後もお鎮め地蔵の俗称で、講中で祭られています。

みちびき地蔵(八幡二丁目) 八幡地区の旧県道に沿い、1952年(昭和27年)に当地の釜売家の人が建立した石仏で、傍らには大きな羽釜が置かれ往来安全のための地蔵尊です。

佐市地蔵(利松三丁目) 明治時代のものといわれ、子育て地蔵として信仰されました。地蔵の背中に「佐市」と墨書されていますが、そのいわれは不詳です。

北原地蔵(八幡五丁目) 大正時代のもので、子育て地蔵として信仰されました。3体の内1体は首がないので、「首なし地蔵」として知られています。北原は地名に由来します。1971年(昭和46年)に近隣の人々によって、お堂の建て替えがありました。



北原地蔵

日本建国記念奉納地蔵(利松三丁目) 1749年(寛延2年)2月4日に、利松村の僧教智真が実業浄真大徳をめぐして行った廻国順礼を記念に奉納したものと思われます。



日本建国記念奉納地蔵

上り立て地蔵(八幡東三丁目) 旧火葬場にあった六地蔵の1体で、戦前は結婚式に運び出されていました。他の5体は行方不明です。

参考文献 『広島市の文化財』第48集(石仏石神等民間信仰調査報告)
(財)広島市歴史科学教育事業団編集 1991年

八幡川流域の橋

〔八幡地区の橋〕

三和橋 百年前は吊り橋で、出口橋(イデクチバシ)と呼ばれ、付近には梅林がありました。1948年(昭和23年)9月に現在地に学校組合立三和中学校が設置され、1951年(昭和26年)のルース台風で橋が破損し、改修後は中学校への通学路として「三和橋」と呼ばれるようになりました。

新郡橋 1975年(昭和50年)に新幹線の工事用道路として造られた橋が、そのまま地域の幹線道路の橋として利用されています。従前から下流にある郡橋に対して、新郡橋と命名されました。

郡橋 1951年(昭和26年)10月のルース台風により橋が流され、3年後に現在のコンクリート橋となりました。この橋は、五日市・観音と石内・沼田を結ぶ主要道路上にあり、橋への勾配が急であるため、昔は「馬車泣かせの橋」と言われました。橋名は利松の郡地区にちなみます。



郡橋

明実橋 初めは吊り橋でしたが、1941年(昭和16年)頃には土橋になりました。橋の完成祝いに「相撲大会」が開催されたということです。橋の名前の由来については不詳です。

池田歩道橋 初めは吊り橋でしたが、当地に地主の池田家があり、その橋名となりました。